

# 終章 日本型雇用と女子の運命

- **日本型雇用システムと女性労働をめぐる状況は何重にも複雑に錯綜している**

- **1990年代に起こった変化**

- 中核に位置する正社員に対する雇用保障と引き替えの無限定の労働義務には手をつけず、周辺部の非正規労働者を拡大
- 女性は、男性並みに働くことを条件に、総合職・基幹職として活躍していく
- しかし、それができない多くの女性は、一般職から非正規労働者に追いやられる
- 正社員コースに入れなかった男性も非正規労働者に追いやられる

- **日本的成果主義の矛盾**

- 1990年代、ネオリベ派、雇用契約の無限定性には目を向けないまま、年功賃金制を糾弾し、成果主義を唱道
- 成果主義が強行されると、評価に納得できない労働者の不平不満が高まり、2000年代に批判がわき起こる
- しかしその批判は、旧来の日本型雇用を懐かしむだけで、将来への展望を開くものではなかった

## ▫ 日本的成果主義と女性

□(総合職・基幹職に就けば男性と対等に働けるという意味で)  
女性にとってある意味では福音だった

□しかし(成果を評価する明確な基準がないまま)無制限な長時間労働による成果競争に女性を巻き込むことにもなった

□無理な競争についていけない女性たちは、そこから降りることを余儀なくされた

## ▫ ワークライフバランスと女性

□2000年代、無制限に働く男性を前提にした日本型「ノーマルトラック」とは区別された「マミートラック」が作りだされる

□その両側に分断された女性たちが、どちらも不満を募らせる  
— そういう状況が進んでいるのが現在の姿

▪ 日本型雇用の縮小と変形のはざままで振り回される現代の女子の運命は、なお濃い霧の中にある

# 考えてみよう

1. 「ノーマルトラック」と「マミートラック」の両側に分断された女性たちとは、具体的にはどういう女性のことか？
2. 「日本型雇用の縮小と変形」とは、具体的にはどういうことを意味しているのか？
3. 「日本型雇用の縮小と変形のはざままで振り回される」とは、どういうことか？
4. 「現代の女子の運命は、なお濃い霧の中にある」という言葉をわかりやすく言い換えれば？

# あとがき

- 本書の特徴：日本型雇用という補助線を引いて女性労働の問題を論じたこと
- 女性と非正規労働という問題を正面から取り上げていないのは、この問題を女性労働問題の枠組みだけで論じることが困難なため — 非正規労働の問題を本格的に論じようとしたら、本一冊分くらいの分量が必要

いずれ濱口が非正規労働をテーマとした本を書いてくれることを期待しましょう